



講演終了後、生徒と記念撮影するラポイント1等書記官(中央)



池田高でカナダ大使館出前授業

池田高校(富永^{とみながまなぶ}学校長、生徒81人)で10月25日、全校生徒を対象にカナダ大使館出前授業が行われました。

この授業は、令和4年に池田町の国際姉妹都市カナダ・ペンティクトン市出身のイアン・マツケイ駐日カナダ大使が来町したことがきっかけで、町とカナダの交流を深めるとともに、生徒がカナダの文化や社会などを学び、国際的な視野を広げ、国際的な視野を高めることを目的に実施。同校では、今年1月にペンティクトン市の姉妹校などを訪れ、本年度からは毎年訪問する予定です。

この日、カナダ大使館のステイブ・ラポイント1等書記官が講師を務め、カナダの文化や教育について説明し、移民が多く「モザイク社会」「ミックス・サラダの社会」といわれていることや教育は小中高一貫の12年制であることなどを紹介。生徒は「カナダの一番魅力的な所は」や「カナダのおすすめの料理は」などの質問をし、カナダへの理解を深めました。



町長からワイン事業を学ぶ 池田高で「ワイン学」実施

池田高校(富永学校長、生徒81人)で10月7日、1年生を対象にワイン事業について学ぶ「ワイン学」が行われました。

高校の特色づくりの一つとして、町を代表するワインについて学ぶ授業の実施を町から同校に働き掛け、実現。1年次の必修科目「科学と人間生活」の5時間を使い、十勝ワインの歴史やブドウ栽培、ワインの製造工程について学びます。

初回となったこの日、安井町長が講師を務め、第一

次十勝沖地震や冷害・凶作、赤字再建団体の指定といった苦境からブドウ栽培、ワイン造りへと挑戦した十勝ワインの歴史や赤・白・ロゼワインの製造工程などを説明。また、町内の中学生がブドウを収穫して、そのブドウで造られたワインをはたちのつどいで贈る事業などを紹介し、授業の最後に安井町長は「ワインの町・池田町に生まれ育ったことが誇りと思えるようなワイン事業を進めていきたい」と話していました。